幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　５７号
令和７年１１月　１日

越前町地域交流センター　にじはこ完成

幕末まで幸若一族の屋敷地であった跡地に地域交流センターがこのほど完成しました。同地は明治維新後、一族から譲渡され、戦前は郡役所、戦後は地方事務所さらに青少年ホームなどとして利用されてきました。その幸若跡地が今回新しく町民交流センターとして生まれ変わりました。

なお、同館内に西田中市街地の新旧移り変わりを、展示しており懐かしい思い出が甦ります。

旧丹生地方事務所

旧青少年ホーム

研修旅行参加者募集！

本年の秋季研修旅行は下記により実施します。

日　時　１２月７日（日）午前８時バス出発
　　午後５時３０分着
　　役場駐車場
行　先　金沢能楽堂（宝生流能鑑賞）＆石川県立美術館
　　＆兼六園散策　　昼食・三芳庵
参加費　￥５，０００（児童生徒　￥２，０００．）
能楽堂演目
　　能「絵馬」渡邉茂人、酒井章、佐野弘宜ほか
　　狂言「福の神」炭哲男、炭光太郎、吉川真生
　　能「舎利」松田若子、福岡聡子、平木豊男
参加申し込み締め切り　１１月２３日（日）
お問い合わせ・参加申し込み先
　　橋本会員090-7746-8689　月田会員090-2127-7856

幕府の式楽となった幸若舞の雅の世界がかって西田中地区にあったことに思いをいたしましょう！

幸若歴史愛好会開催

松平春嶽と橋本左内⑯⑰

左内の旅と辞世の歌

さる九月二六日、「橋本左内の旅」をテーマとして、会員七名の参加により研究会が開催されました。

安政五年、朝廷工作のため江戸から京へ向かう東海道の旅を記した「出坂諸事記」の概要。幕府の嫌疑を避けるためか観光グルメ風である。

①小田原では雑煮、ご飯、焼魚を食べている。
②掛川ではマグロを食べて腹痛に襲われた。また好物の橙（みかん）を食べた。浜松の鳥鍋はおいしかった。
③赤坂（三河）では、遊女を断り、馬鹿にされた。
④大垣宿の水風呂は不浄で清潔を訴えている。
⑤その後京に入る前に、奈良・大坂を旅している。左内生涯最後の観光旅となった。

また十月一六日には、「志士たちの辞世の歌」をテーマとして、会員一一名の参加により研究会が開催されました。

長野主膳「飛鳥川きのふの渕はけふの瀬とかはるならひをわが身にぞ見る」
長井雅樂「君がため捨つる命は惜しからでただ思わるる国の行く末」
橋本左内「さみだれのかぎり有とは知りながら照る日をいのるこころせわしき」
（実際には日下部伊三次の作とされる）
吉田松陰「身はたとひ武蔵野の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂」

安土城シンポジウム参加者募集

すでにかわら版第５４号などに記載しておりますが、かねてから交流のある滋賀県近江八幡市で活動している「安土城再建をめざす会」より、きたる**１１月２４日（月・祝）**に開催されるシンポジウムに協力要請がありました。シンポでは安土城再建や信長と幸若舞との関係について討論される予定です。当会としても、参加希望者を募集します。

シンポジウム講師等

小和田哲男　日本城郭協会理事長
木下　達文　京都橘大学教授
尾崎信一郎　近江八幡市郷土史会理事

当シンポへの参加問い合わせは

西田中・白山神社と織田・劔神社 幸若舞奉納

白山神社神楽殿

さる九月二三日、西田中白山神社秋季例大祭において同神社神楽殿において幸若舞を奉納しました。また、十月五日、織田劔神社観月の宴で同拝殿において団員五名により幸若舞を奉納しました。

劔神社では、例年の雅楽の演奏に代わり、小曽原地区の女性二名による二胡の演奏が行われました。

劔神社拝殿

二胡の演奏

幸若子孫・桃井英雄氏と懇談

さる１０月４日、朝日中学校の喜寿同窓会に参加した幸若子孫の桃井英雄氏（竹内輝雄氏の令弟、大阪府在住）と、同会の終了後懇談する機会がありました。

同氏は現在は「幸若」とはあまりかかわっておりませんが、懐かしい子ども時代の話に花が咲きました。

幸若舞旗補修・補充完了

かねてから西田中本通り、駅前通りの幸若舞旗の補修・補充を行ってきましたが、このほど完了しました。

当面の主な日程

朝日地区文化祭　１１月１～２日
朝日小出前授業　１１月７日（金）
安土城シンポ　１１月２４（月）
詳細２面参照
歴史愛好会　１１月２５日（火）中止
１２月１７日（水）実施
金沢研修旅行　１２月７日（日）
詳細１面参照

人工知能AIによる幸若舞分析⑤

質問５　幸若舞の衰退と消滅の原因を答えなさい。

幸若舞は、近世に入ると徳川将軍家の庇護を受け隆盛を極めましたが、その後、次第に衰退し、ついには滅んでしまいました。その要因は、以下の点が挙げられます。

1. 歌舞伎・浄瑠璃の台頭

17 世紀後半になると、歌舞伎や浄瑠璃といった新たな芸能が台頭し、人々の娯楽の中心が変化していきます。これらの芸能は、幸若舞よりも視覚的に華やかで、物語も複雑で多様性に富んでいたため、人々の関心を集めました。一方、幸若舞は伝統的な様式を固持し、変化を嫌ったため、次第に人々から飽きられていきました。

歌舞伎は、幸若舞の演目の一部をほぼそのままの詞章で上演するなど、幸若舞の影響を受けながらも、より視覚的な要素や物語性を強化することで、観客の心を掴んでいきました 。

2. 保守的な芸風

幸若舞は、その隆盛期に確立された様式を重んじ、新しい要素を取り入れることを避ける傾向がありました。この保守的な姿勢は、時代の変化とともに、観客のニーズとの乖離を生み、衰退の一因となりました。

3. 幕府の庇護の縮小

幸若舞は、徳川将軍家の庇護によって隆盛を誇りましたが、時代が下るとともに、その庇護は縮小していきました。将軍家の関心が他の芸能に移ったり、財政難によって幸若舞への支援が削減されたりしたことが、衰退を加速させたと考えられます 。

幸若舞は、幕府の式楽としての地位は保ちながらも、江戸では将軍や一部の大名に鑑賞されるのみとなり、その活動は限定的なものになっていきました 。

4. 女性による「新幸若舞」の登場と消滅

近世中期には、女性芸能者による「新幸若舞」が登場し、幸若舞に新たな可能性がもたらされました 。しかし、この「新幸若舞」も近代初期には消滅してしまい、幸若舞の復興には繋がりませんでした 。

5. 地方における伝承の限界

近世に入ると、幸若舞は地方にも伝播しましたが、中央とは異なり、質素な芸態のものや女性による変容したものなど、多様な形態で伝承されていきました 。しかし、これらの地方における幸若舞も、広く普及するには至らず、最終的には福岡県みやま市瀬高町大江の幸若舞のみが現代に伝わっています。

まとめ

幸若舞は、近世において、歌舞伎や浄瑠璃といった新たな芸能の台頭、保守的な芸風、幕府の庇護の縮小など、複合的な要因によって衰退し、滅んでいきました。地方での伝承も広がりを見せることはなく、現代においては、わずかに大江の幸若舞がその名残を留めるのみとなっています。

本資料は、昨年１２月８日山口明彦氏に講話をいただいたときに示されたものです。ＡＩに読み込ませた資料は次の通りです。越前町教育委員会「幸若舞とは」および「戦国大名が愛した幸若舞」、徳江元正「幸若舞曲語り物」、須田悦生「幸若舞の展開ー芸能伝承の諸相」、中尾薫「書評　須田悦生「幸若舞の展開ー芸能伝承の諸相」、佐谷眞木人「幸若舞「敦盛」の成立」および松井貴子「幸若舞「敦盛」から「人生五十年の試み」」

質問は５問あり、順次掲載しました。